

## 情報共有シート運用について

超高齢社会となり介護保険利用中の方の入院が増加すると考えられ、スムーズな入院・在宅移行のための入退院支援がより重要になります。利用者の生活についてよく知るケアマネジャーと、その方の身体状況をよく知る医療機関における情報共有によって、安心して療養生活を送ることが出来ると考えられます。

そこで、遠賀中間地域における訪問看護ステーション・居宅介護支援事業所・地域包括支援センターと医療機関の退院支援部門等において、相互の理解と入退院時の連携促進を図り連携を円滑に進めるため統一した情報共有シートを策定しています。

### 【経緯】

- ・平成 27 年度 在宅医療連携拠点整備事業にて、入院時情報共有シートのおんが病院内における試験運用を開始
- ・平成 28 年度 在宅医療連携拠点整備事業にて、入院時に加えて、退院時情報共有シートの作成に着手  
入院時・退院時情報共有シート共にその内容・様式について、検討委員会において複数回協議を行い決定  
委員：1 市 4 町地域包括支援センター、地域医療連携室、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所（遠賀郡居宅介護支援事業者連絡会）
  - ①入院時に欲しい情報、退院時に欲しい情報を出し合いシートを作成
  - ②介護保険利用者を対象に使用する
  - ③入院時はケアマネジャー、訪問看護師から医療機関へ、退院時は医療機関からケアマネジャー（必要時、その他サービス事業所）へ情報共有シートを提供する
- ・遠賀中間地域在宅医療介護連携推進協議会の承認を経て、平成 29 年 4 月から運用を開始

### 【運用について】

- 1.入退院時情報共有シートは、利用者（入院患者）の担当ケアマネジャー、その他サービス事業所と入院機関の MSW や看護師等が早く確実に利用者情報の共有が出来、連携をスムーズにすることを目的に作成している
- 2.滞り無く情報共有が出来、お互いの報酬の算定にも役立つと考えられる
- 3.入退院時情報共有シートの使用自体が目的ではない